

第27回伊勢原市子ども・子育て会議 議事録概要

- 1 日時 令和元年10月30日(水) 午前10時から正午まで
- 2 場所 伊勢原市役所3階 全員協議会室
- 3 出席者 宮川会長、石井副会長、高橋委員、田中委員、佐伯委員、小山委員、萩原委員、能條委員、青木委員、魚見委員、事務局(子ども部長 齋藤、子ども育成課長 山田、稲葉、松本、吉川)
- 4 欠席者 大田(正)委員、大田(愛)委員、菅野委員、埴田委員
- 5 傍聴人 なし

6 議事概要

-1 開会(午前10時)

-2 議題

(1) 第2期伊勢原市子ども・子育て支援事業計画(令和2年度～令和6年度)

素案について

- 第2期伊勢原市子ども・子育て支援事業計画(以下、「第2期計画」という。)の素案について説明。

(事務局)

- ・ これまで審議された第2期計画の内容について、第1章から第6章で構成する計画書の素案としてまとめた。
- ・ 前回の会議で報告した第2期計画に追加・廃止する事業に加え、次の事業を追加・廃止することとした。
追加：医療的ケア児の受入体制整備
廃止：ワーク・ライフ・バランスセミナー

【質疑応答】

<個別事業について>

(委員)

- ・ 市内保育所に医療的ケア児の指導資格を有する看護師が所属しており、このような財産を生かしていけるか。
- ・ 現在、保育所では、保育中に子どもが熱を出すと親に連絡して帰すこととなっており、親が仕事を休まなければいけないが、熱を出した子どもを引き続き保育所で見るような事業を先駆的にやっていかなければならないとも思う。

(事務局)

- ・ 医療的ケア児を安定して受け入れられる体制を作っていく必要があると考えており、施設とも相談して受入体制について整理していきたい。

(委員)

- ・ 貧困対策の事例として、朝ご飯を食べられない子どもの支援を実施したところ、貧困家庭ではない子どもも支援を受けにくるということがあった。どこまでが貧困かという問題や、一概に貧困という言葉の中で支援を実施することによる差別の問題等もあるため、このようなことも計画を進める上で考慮してもらいたい。

(事務局)

- ・ 貧困対策について、どういう形で支援ができるのか、差別にならないように配慮していく。

(委員)

- ・ 特別支援教育環境整備事業の目標値である「介助員配置の充足率 100%」の捉え方について確認したい。

(事務局)

- ・ 教育委員会に確認する。

(委員)

- ・ 今の意見に関連して、教育関係では 100%とあるが、福祉関係では具体的な数値がないのはどのように解釈すればよいか。

(事務局)

- ・ 福祉には補助金を出す等、やり方が異なることにより書き方の違いがある。受入体制を整えられるよう考えていかなければならないと考えている。

(委員)

- ・ 学童保育は、70 人で1クラブから 40 人で1クラブと制度が変わったが、それも踏まえてクラブ数の目標値を増やしていかなければならないと思う。

(事務局)

- ・ 計画値の 12 クラブは場所の数を指しており、40 人単位にすると 23 程が必要になってくる状況である。

<13 事業について>

(委員)

- ・ 乳児家庭全戸訪問事業について、民生委員が子育てサポーターも携わっているが、市民の中からサポーターになってもらえるような働きかけをするようお願いしたい。子育てサポーターに求められるものが多くなってきていると感じるため、子育てサポーターのあり方も考えてもらいたい。

(事務局)

- ・ 役割分担も含めながら、見直しをしていきたい。

(委員)

- ・ 保育所が単独で実施する子育て支援事業において、初めて出産される保護者の登録事業も行っているのだが、保育所の先生が保護者の相談役になることが多い。そのため、育児の相談役になれるような部分を事業として実施する必要があるのだが、事業を区切ってしまうとできない現状もあるため、流れのある計画をお願いしたい。

(委員)

- ・ 人手不足のため、知恵を使っていく必要がある。人手が少ない中で賄えるように、QRコードのようなものを少しでも活用してもらおうと、より報われると思う。

【議事の議決について】

承認された

-7 その他

- 12月中にパブリックコメントを実施することを報告した。
- 現在の子ども・子育て会議委員の任期は令和2年1月9日で終了し、1月10日以降の委員については、改めて事務局から依頼することを報告した。

-8 閉会（午前11時45分）